

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	◎	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援が開始され、足元の来客数は新型コロナウイルス感染症発生前の状態に回復している。
	◎	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・全国旅行支援が開始され、現在の予約状況及び旅行商品の販売数が新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復している。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まったことで、多くの観光客が週末を中心に街に訪れている。依然としてインバウンドの動きは低調だが、今後徐々に増加すると期待している。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・人々の生活に行動制限の緩和が浸透し始め、団体の観光客が多く訪れるようになったことにより、繁華街の人通りは増加している。また、祝いの集まりが増えたことにより、祝い商品の販売量も増加した。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が増加傾向にある。
	○	スーパー（人事）	来客数の動き	・当県では県外からの流入者が増加したことにより、経済が動き始め、景気は持ち直しつつある。
	○	スーパー（財務担当）	単価の動き	・物価上昇の影響で、1人当たりの買上点数は減少しているが客単価は上昇しており、結果として売上が増加している。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・地域イベントが多く開催されるようになり、人の動きが活発化し、当店への来客数も増加している。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきており、少しずつ来客数が回復している。
	○	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・飲食時における制限が解除されない限り大きな集会を実施しづらい状況は変わらないが、全国旅行支援が始まったことで宿泊客数は増加している。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・依然として平日の利用客は少ないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や全国旅行支援の影響で、週末の利用客は増加傾向にある。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・全国旅行支援の影響で遍路客が増加している。街にも少しずつ活気が戻ってきており、売上也回復傾向にある。
	○	観光遊園地（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しており、観光客の動きが活発になっている。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染状況を人々が余り気にしなくなっており、観光客や飲食店への来客数が増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に加え、全国旅行支援が始まったことで、県外から多くの観光客が商店街に訪れている。一方、消費の面では業種によって売上に差があり、全体としては余り変わらない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・値上げ前の駆け込み需要で一時的に売上は増加したが、11月以降も値上げの予定が控えているため、長期的には状況は変わらない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・物価上昇により客単価が上昇しており、来客数も前年比で増加している。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いており、前年よりは業績が伸長している。
	□	コンビニ（商品担当）	それ以外	・物流費や人件費、光熱費等が高騰しており、販管費が上昇しているため売上が増加しても景況感は余り変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・円安の影響で来客数が減少している。現時点で売上に大きな影響はないが、年末にかけて売上がどのように推移するか依然として不透明な状況である。
□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前月に続き大きく売上が伸びることもなく、以前と変わらない状況が続いている。	
□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症に対する警戒感が和らぎ、客の動きは活発化しているが、依然として新型コロナウイルス感染症発生前の水準には回復していない。	

	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・商品によって売上が回復しているものと物価高の影響を受けて回復していない物があり、全体としては変わらない。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・契約から納車までに半年から2年以上掛かるため厳しい状況が続いている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注台数は前年並みで推移している。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・依然として車の生産状況が改善されておらず、状況は変わらない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・売上は回復傾向にあったが、10月からビールが値上げされたことにより徐々に購入数が減少しており、全体としては余り変わらない。
	□	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・来客数が増加している店舗もあるが、全体では微増程度である。
	□	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響が薄れてきている一方、物価高の影響が少しずつ拡大しており、売上は横ばいである。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いてきたが、物価の上昇や円安の影響で消費は抑えられている。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ薄れてきており、来街客は増加している。しかし、以前と比べると、ごく一部の客を除き、夜の帰宅時間は早まっており、景気は回復していない。電気代や材料費等の経費が上昇してきており、経営は厳しい状況が続いている。
	▲	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・物価上昇の影響により、客は生活必需品以外の購入にちゅうちょする傾向にある。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・物価上昇の影響により、意欲はあるものの購入を断念する客が多い。
	▲	通信会社（社員）	それ以外	・物価上昇の影響で人々の財布のひもが固くなってきており、販売量が減少傾向にある。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・売上が減少している。
	×	*	*	*
企業 動向 関連 (四国)	◎	食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・食品業界の値上げは他業種より世間から厳しい目でみられている。一方、世間に値上げを受け入れる土壌が着実に広がっており、今後売上が回復すると期待している。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内だけでなく海外からの観光客も増加傾向にあり、全国の観光地がにぎわってきている。当社でも受注数が大幅に増え、売上が増加している。
	○	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量に対する新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に薄れつつある。
	○	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・引き続き個人向け宅配分野が好調であることに加え、新型コロナウイルス変異株対応ワクチンの本格普及や全国旅行支援の影響で経済活動が活発化しつつあることにより、減少傾向にあった企業向け小口積合せ貨物の取扱物量が徐々に回復している。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・社外イベントやボランティア活動について、新型コロナウイルス感染症の流行以前に近い形で実施できるようになってきており、参加者数も増加傾向にある。
	○	金融業（副支店長）	それ以外	・仕入価格の値上がり分を販売価格に転嫁しやすい経済環境下にある。
	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・資材不足による納期の長期化を見越し、早めの注文を受け付けることで一定の受注量は確保しているが、実需は全く増加していない状況が続いている。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・世界的な半導体不足による調達環境の悪化や原材料価格の高騰、円安進行等の課題が山積しており、依然として状況は厳しい。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・資源不足への対応として、ようやく企業が様々な代替措置を講じ始めたところであり、結果はこれからというところである。

	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の発注及び受注量は前年比で減少しているものの、手持ち業務量は不足しておらず、売上への影響は軽微である。新型コロナウイルスの感染状況が一段落しており、事業活動や親睦活動も徐々に回復しているが、業界全体の景況感としては以前と余り変わらない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注数がほとんど伸びていない。
	□	輸送業（経営者）	それ以外	・以前と状況は変わらない。
	□	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内向け出荷量は低調で推移している。海外向け出荷量についても大きな変化はみられず、全体として状況は余り変わらない。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・依然として物価高で消費が停滞しており、厳しい状況が続いている。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注価格や販売価格の動き	・材料価格の高騰が止まらない。販売価格を改定して対応しているが、それ以上に材料価格の改定が早く、追いついていない。さらに、電気代の高騰もあり、利益を圧迫している状態が継続している。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・物価高により客の購買意欲が減退している。
	×	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売市場価格は非常に低調に推移している。例年10月は産地の切り替わりで市場入荷量の変動が大きく、価格も入荷量により動きが見られるが、今年は全体的に動きが少ない。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症に対する警戒意識は新型コロナウイルスの新規感染者数の減少とともに低下している。地域の祭りやイベント行事も通常どおり開催され、地域のにぎわいが戻っている。旅行者も増加しており、市内の宿泊ホテルはどこも満室といった状況で景気回復の兆しがうかがえる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は一定数あるものの、企業側の人材要件の水準が上がってきておりミスマッチも目立つ。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人状況について、前年同時期よりは増加しているものの、ここ数か月は横ばいが続いている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・中小企業の人手不足感が強くなっている。
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・ものづくりに関係する企業では、金属を始めとする原材料や輸送費の高騰分を売価に全て反映できているわけではないため利益を圧迫している。さらに、原料不足などによる納品遅れや、その影響による売掛金の回収遅れなどが周辺業界でも多数発生しており、景気は悪化している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・仕入価格の高騰分を全て販売価格に転嫁することはできないため、利益が減少している。
	▲	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・半導体不足や資材の調達遅延で納品が遅れている。納期が遅れるほど、高騰し続ける原材料費の影響を受けて利益が削られるため、中には受注を抑え始めた企業もある。
	×	—	—	—